

第12回ITER理事会の開催結果について



平成25年7月17日
文部科学省



文部科学省
MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第12回ITER理事会の日程等

日程： 2013年6月19日(水)－20日(木)

場所： 三田共用会議所

議長： 高津 日本原子力研究開発機構特別研究員

出席者：

日 本： 福井 文部科学副大臣、藤木 文部科学審議官 他

欧 州： スミッツ 欧州委員会研究・イノベーション総局長 他

米 国： シナコウスキー エネルギー省科学局次長(代表不在のため代理出席) 他

ロシア： ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会委員長 他

中 国： 曹(ツァオ) 科学技術部副部長 他

韓 国： 李(イ) 未来創造科学部研究開発政策局長 他

インド： グローバー 原子力委員会委員 他

ITER機構： 本島 機構長 他

第12回ITER理事会の主な議題

(1) 開会挨拶

(福井文部科学副大臣、議長、各極代表、機構長)

(2) ITER機構活動報告、諮問委員会等からの報告

(3) ITER計画のスケジュール

(4) 2013年ITER運営評価

(5) その他



第12回ITER理事会の結果概要(1)

ITER機構からの活動報告

○2013年5月末現在、全職員数475名。〈うち専門職員309名、支援職員166名〉

○ITER建設活動の着実な進展

- ・トカマク本体建屋の土台の建設開始。
- ・トロイダル磁場コイル全体に必要な量の90%に相当する420トン超のNb₃Sn素線を製造済み。

ITERサイトの様子



トカマク基礎工事
(土台の建設開始)



第12回ITER理事会の結果概要(2)

ITER計画のスケジュール

- トカマク建屋や真空容器などに遅れが出ているが、これに対してユニークITERチーム（迅速かつ適切な意思決定のためのITER機構と各極実施機関の共同作業チーム）は、スケジュールの加速に向けて企業との密接な協力を含めて解決策を追求しており、既にある程度遅延を回復させる結果が出ている。
- 理事会は、ITERが世界初のものであることによる困難さを認識しつつ、スケジュール回復の努力を継続することの重要性を確認。

運営評価

- ITER協定に基づき、2年に1度、ITER機構の運営の評価を実施することとなっており、今年度は、第3回の評価を実施する予定。
- 理事会は、米国のビル・マディア氏を運営評価人として承認した。



第12回ITER理事会の結果概要(3)

その他

○2013年9月5日－6日に閣僚級ITER理事会をカダラッシュにおいて開催することを決定。

○2013年11月20日-21日に第13回ITER理事会をカダラッシュにおいて開催。



<第12回ITER理事会の様子>



Press Release



FOR IMMEDIATE RELEASE

CS 90 046 🌍 13067 Saint Paul Lez Durance Cedex France
+ 33 (0) 4 42 19 98 18 🌍 www.iter.org

Contact:

Michel Claessens
michel.claessens@iter.org
+33 6 14 16 41 75

Comments:

ITER MOVES INTO FULL CONSTRUCTION STAGE

TOKYO, Japan (20 June 2013)—Convening for its twelfth meeting in Tokyo, Japan, the ITER Council was pleased to take note of the progress in the on-site construction of the ITER scientific facilities and in the manufacturing of its components. Thanks to recently placed major contracts, construction of the main Tokamak Complex has begun. Project management has implemented more efficient cooperation among the ITER Organization and the seven Domestic Agencies in order to achieve faster decision making and improved work performance.

On 19 and 20 June 2013, the governing body of the ITER Organization was convened in Tokyo, Japan. This two-day meeting brought together senior representatives from all the seven ITER Members—China, the European Union, India, Japan, Korea, Russia and the United States—under the chairmanship of Hideyuki Takatsu (Japan).

china

eu

india

japan

korea

russia

usa

The ITER project is transitioning to full construction. The Council noted the increasing pace of construction activities at the ITER site in Saint Paul-lez-Durance, France and good progress in the manufacturing of Tokamak components and supporting systems, currently underway in all the ITER Members. Major contracts have been placed recently and many leading industries are now involved in the project; the first delivery of large components is expected on site in the third quarter of 2014.

The Council welcomed the improved collaboration between the ITER Organization and the Domestic Agencies as part of the Unique ITER team, created to improve project execution with a goal to achieve schedule acceleration. Through close collaboration, solutions are being sought to improve schedule performance on the manufacturing of the systems and components required for First Plasma, including close collaboration with industry that has already resulted in the recovery of some delay. The ITER Council reaffirmed the importance of sustained efforts regarding schedule implementation, while recognizing the challenges due to the first-of-a-kind nature of ITER.

Significant progress was reported in the manufacturing of ITER magnets. More than 420 tons of niobium-tin strands (Nb₃Sn) for the toroidal field conductors have now been produced by the six procuring Members, representing 90 percent of ITER project needs. Also, 133 tons of niobium-titanium (NbTi) strand for the poloidal field conductors (51 percent of project needs) have been produced by China, Europe and the Russian Federation.

The Council approved the appointment of Bill Madia as the 2013 Management Assessor.

A special meeting with representation at Ministerial-level will take place on 5-6 September at the ITER site in Saint Paul-lez-Durance, allowing the progress in construction of this vast international collaboration for fusion to be witnessed first-hand.



BACKGROUND TO THE PRESS RELEASE

ITER—designed to demonstrate the scientific and technological feasibility of fusion power—will be the world's largest experimental fusion facility. Fusion is the process that powers the sun and the stars: when light atomic nuclei fuse together to form heavier ones, a large amount of energy is released. Fusion research is aimed at developing a safe, abundant and environmentally responsible energy source.

ITER is also a first-of-a-kind global collaboration. Europe will contribute almost half of the costs of its construction, while the other six Members to this joint international venture (China, India, Japan, the Republic of Korea, the Russian Federation and the USA), will contribute equally to the rest. The ITER project is under construction in Saint Paul-lez-Durance, in the south of France.

Photos of the Council Meeting can be found at: <http://www.iter.org/album/Newsline/272%20IC%2012>

More information on the ITER project can be found at: <http://www.iter.org/>

(仮訳)

プレスリリース

ITER は完全な建設段階に移行

日本、東京（2013年6月20日）—ITER 理事会は日本の東京において第12回会合を行い、ITER サイトにおける科学的な施設の建設及び ITER 機器の製造に関する進展を歓迎した。最近締結された主要な契約により、メインのトカマク建屋の建設が開始された。事業管理として、より早い意思決定を行い、そして作業能力を改善するために、ITER 機構と7極の国内機関の間で、より効率的な協力が実施された。

2013年6月19、20日に、ITER 機構の統治組織（理事会）が日本の東京で招集された。この2日間の会合では、7つの ITER 参加極の全て—中国、欧州連合、インド、日本、韓国、ロシア、及び米国—の上級代表者が、高津英幸議長（日本）の下、一堂に会した。

ITER 計画は完全な建設へ移行している。理事会は、フランスのサン・ポール・レ・デュランスの ITER サイトにおける建設活動のペースが加速されていること、そして全ての ITER 参加極において現在進められているトカマク機器及び支援システムの製造がよく進展していることに留意した。最近主要な契約が締結され、そして今や多くの一流企業がこの事業に携わっている。大型機器のサイトへの最初の搬入が2014年の第3四半期に予定されている。

理事会は、スケジュールの加速を達成することを目的として事業の遂行を改善するために作られたユニーク ITER チームの一環として、ITER 機構と国内機関間の協力の改善を歓迎した。初プラズマに必要なシステム及び機器の製造のスケジュール状況を改善するために、密接な協力を通じて、解決策が追求されている。これには企業との密接な協力が含まれており、既にある遅延を回復させる結果となっている。ITER 理事会は、スケジュールを遂行するための努力を持続することの重要性を再確認し、一方で ITER がこの種として初めてのものであることによる挑戦を認識した。

ITER のコイルの製造において大きな進捗が報告された。これまでに、トロイダル磁場コイルの導体用に420トンを超えるニオブスズ(Nb3Sn)の素線が、6つの

調達を担う参加極により製造されており、これは ITER 計画に必要な分の 90%に相当する。また、ポロイダル磁場コイルの導体用に 133 トンのニオブチタン (NbTi) の素線が、中国、欧州連合、及びロシアにより製造された（事業に必要な分の 51%に相当）。

理事会は、2013 年の運営評価人としてビル・マディア氏の任命を承認した。

サン・ポール・レ・デュランスの ITER サイトにおいて、9 月 5-6 日に閣僚級の代表を伴う特別会合が開催される予定であり、核融合のための巨大な国際協力の建設の進捗を直接目にすることができる。

ニュースリリースの背景情報

ITER は、世界で最も大きな核融合実験装置であり、核融合エネルギーの科学技術的実現可能性を実証するために設計されている。核融合とは、太陽及び星々にエネルギーを与える反応過程である。軽い原子核が融合して重い原子核を形成する時、膨大なエネルギーが解放される。核融合研究は、安全で、豊かで、なおかつ環境適合性のあるエネルギー源の開発を目指したものである。

ITER はまた、世界的な協力の最初の機器である。欧州連合は建設コストのほぼ半分を負担し、この国際協力プロジェクトに参加する他の 6 極（中国、インド、日本、韓国、ロシア、米国）は、残りのコストに等しく貢献する。ITER 計画は、南フランスのサン・ポール・レ・デュランスにて建設が進められている。

理事会会合の写真は以下を参照されたい。

<http://www.iter.org/album/Newsline/272%20IC%2012>

ITER 計画の更なる情報は <http://www.iter.org/> を参照されたい。